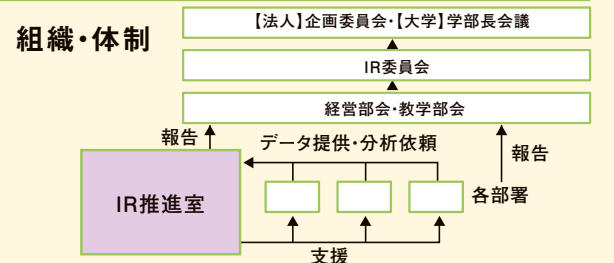


狙い	教学と経営の意思決定支援、現場の改善支援、IRマインドの醸成
組織・構成員	IR推進室(室長、兼任職員2人、専任職員1人)
主な業務	▶定例会用各部署の報告書作成支援 ▶非定型レポートの作成
データの収集法	▶基幹データベースと接続 ▶依頼があった組織から必要なデータ提供を受ける
データの公開法	▶経営部会、教学部会で報告 ▶ファクトブックを作成し、学内外に公表
活用例	▶Webアクセス解析を基にした海外向け広報展開 ▶ツイッターでの情報発信

**上智大学**  
 学生数 / 13,997人  
 教員数 / 543人 職員数 / 368人  
 学部 / 神、文、総合人間科学、法、経済、外国語、総合グローバル、国際教養、理工  
 キャンパス / 四谷キャンパスはじめ6キャンパス  
 THE世界大学ランキング2019 / 1001+位、同アジア版 / 301-350位、同日本版 / 17位

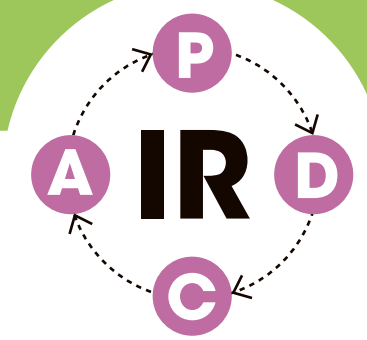


※2018年5月1日現在のデータ



# IRでまわす! PDCAサイクル

第5回 上智大学



## データを活用し、現場の業務を支援 全学的な「IRマインド」の醸成へ



**IR推進室 鎌田 浩史**  
 かまたひろふみ ●2008年上智大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程満期退学。関東学院大学IR推進室、琉球大学インスティテュート・リサーチ推進室特命助教などを経て、2016年より現職。

### データ分析で業務改善を支援するコンサルタント

貴学のIR担当部署の成り立ちについて教えてください。  
 2013年に教職協働プロジェクトの一つとしてIRに関する調査を始めたのが、本学のIR活動の出発点です。現在のIR推進室が設置されたのは2015年。メンバーは4人で、室長、経営企画グループとの兼任職員2人、専任職員1人という構成です。  
 IR推進室の主要な役割は「教

学と経営の意思決定支援」と「現場の改善支援」です。中長期計画やアクションプランに関わるデータ検証は、主に経営企画グループの兼任職員が担当します。各部署の業務改善や計画立案など、ミドルレベルのPDCAに関する事案が、専任職員である私の担当です。現場の業務をデータ分析でサポートするコンサルタントのようなポジションだと言えるでしょう。  
 具体的な活動内容は?  
 本学では毎月、教学と経営の2つの定例会を開催しており、各

### 分析内容を学外へSNSを使って発信

関連部署が多岐にわたって

いますが、データの収集・分析はどのように行っていますか?  
 教務系のデータを一括管理している基幹データベースに、BIツール「Tableau(タブラロー)」を直結して集計・分析しています。基幹データベースには膨大なデータがありますが、複数データを参照する分析でも数十秒で結果が出ます。また、分析結果のビジュアル化でも役立っています。こうした恵まれた環境により、本学のIRは大きく前進しました。

く、留学する学生が多いため。留学を後押しする制度も整っています」という説明も加えます。こうした発信は、社会から求められている学修成果の可視化と公表にもつながると思います。

### 気づきを可視化し改善する文化の形成

IRを学内に浸透させるための工夫は?

毎月の部会での報告を通してIRの業務に対する認知は広がっています。それに加えて、年に一度、新人職員向けの研修を実施しています。この研修ではデータの特徴や扱い方の基礎的な知識のほか、IRの機能的な役割や資料のつくり方、データを使ったストーリーの展開方法などをレクチャーします。

### PDCAサイクルを回すために重要なことは?

IRを活用したPDCAサイクルを回すために重要なことは、構成員一人ひとりがIRマインドを持つことです。日々の業務の中で解決すべき課題を発見したとしても、それを自分の中だけでとどめ

現在、少しずつ「IRは使える」という感覚が学内に共有されつつあるので、各部署の業務支援を通して、IRの有効性を伝え、IRマインドの浸透につなげていきたいですね。

IR推進室は、各部の報告用のデータの収集と分析などを行い、報告書の作成をサポートしています。例えば、グローバル教育推進室の依頼を受けて「海外協定校との交換留学がアクティブな状態かどうか」を分析したり、SGU事業推進室の依頼を受けて、KPIの達成率、経年変化を調べ、他大とベンチマーキングしたり、などです。  
 依頼業務だけでなく、IRからの提案として、学内の課題解決に向けたデータ収集・分析も行っています。例えば、ウェブのアクセス解析を基にした海外向けメディアプランの提案や、担当窓口が複数に分かれるため、全体像が把握しづらかった海外からの留学生の生活・学修状況を明らかにすることなどに取り組んできました。

## 注目のKPI

年間の報告書の数  
**30本**

IRマインドの醸成に向けて、学内で共有されるデータの数を活動目標としている。2つの定例会のために作成する報告書は年間20本。それにIR推進室が独自に行う自主提案などの非定型レポートを10本加えて、年間30本の報告書を作成するのが当面の目標だ。各部署からの相談に応えることで、非定型レポートの本数を増やしていきたいという。

\*2 ビジネス・インテリジェンスツール。企業等に蓄積された大量のデータを分析し、迅速な意思決定を助けるソフトウェア。  
 \*3 ツイッターアカウント「データで見る上智大学」@IR0ffice\_Sophia

\*1 スーパーグローバル大学創成支援事業。